

フォーラム・セミナー報告

シンポジウム 「大学におけるライティング支援体制づくりを考える —学生の書く力をつけるために—」を開催

日時：2017年2月18日(土) 13:00～17:30
場所：第1学舎1号館千里ホールA

2017年2月18日に、大学間共同教育推進事業「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング/キャリア支援」による、津田塾大学との合同シンポジウム「大学におけるライティング支援体制づくりを考える—学生の書く力をつけるために—」が、関西大学千里山キャンパス千里ホールにて開催された。本シンポジウムは、取組最終年度における総括として、これまでの5年間の取組の成果を公表するとともに、取組期間終了後のライティング支援の展開のありかたを模索するものとなった。

第1部では、本取組の外部評価委員である早稲田大学の佐渡島紗織氏による基調講演「大学における《支援》と学生の《自立》」の後、本取組にかかわってきた関西大学および津田塾大学の特任・特命教員4名による取組成果の紹介

がおこなわれた。取組成果紹介においては、関西大学ライティングラボと、津田塾大学ライティングセンターそれぞれのライティング支援の理念と特徴が紹介されたあと、本取組における大きな柱である、ルーブリックを活用したライティング支援の実際をめぐると、Webによるライティング支援システムTEC-systemの開発と活用をめぐると報告がなされた。

第2部のパネルディスカッションでは、本取組の評価委員である佐渡島氏、ならびにトム・ガリー氏（東京大学大学院教授、The Writing Centers Association of Japan代表）を招き、本取組にか

かわってきた教員の代表との間で、本取組の意義と、これからの日本におけるライティング支援体制づくりをめぐる、活発な意見交換がおこなわれた。

なお、本シンポジウムは、津田塾大学会場にも中継され、両校あわせて54大学から157名の教職員・学生が参加し、盛況であった。（文学部 中澤 務）



パネルディスカッションの様子

教職員合同FD/SD研修会 「大学における ライティング支援体制づくりを考える」を開催

日時：2017年2月19日(日) 9:00～12:00
場所：第1学舎1号館実験実習・語学系教室(2)

2017年2月19日に、大学間共同教育推進事業「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング/キャリア支援」による津田塾大学との教職員合同FD/SD研修会として、ワークショップ「大学におけるライティング支援体制づくりを考える」が、関西大学千里山キャンパスにて開催された。

事業の最終年度となる今年度は、前日に開催されたシンポジウムのテーマを受けて、大学において学生のライティング力を組織的に支援していく際の体制構築について検討する内容となった。大学でのライティング支援体制の構築に関心を持つ学外からの参加者も含めた大規模なワークショップ形式で実施さ

れ、参加者は67名（うち津田塾大学・関西大学関係者は30名）と盛況であった。

まず、ライティング支援体制づくりの実践例として、三つの大学の担当者（龍谷大学・長谷川岳史氏、関西大学・西浦真喜子、津田塾大学・飯野朋美）から、ライティングセンター設立の経緯やその運営体制などを報告してもらい、情報と問題の共有をおこなった。その後、数名のグループに分かれて、グループディスカッションが実施された。デ

ィスカッションでは、実践報告をふまえて、支援体制を組織的におこなっていくうえでの課題について自由に意見を出し合い、活発な議論がおこなわれた。

（文学部 中澤 務）



長谷川岳史先生による事例報告

関西大学・大阪府立大学AP合同フォーラム 「学士課程教育における内部質保証システムの構築にむけて —3つのポリシーと学修成果の可視化の連動性に着目して— を開催しました

日時：2017年2月9日(木)14:00～17:30
場所：梅田キャンパス8Fホール

2017年2月9日に関西大学梅田キャンパス8Fホールで、大阪大学をゲストとして招き、大阪府立大学と関西大学でAP合同フォーラムを開催しました。2016年3月末に文部科学省中央教育審議会大学分科会の大学教育部会より「3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン」が発表され、内部質保証システムの構築が求められていることから、学内外からも高い関心が寄せられました。当日は、北海道から九州まで、

179名が参集し、熱い議論が展開されました。

フォーラムでは、関西大学の芝井敬司学長から、急務である内部質保証システムの構築について挨拶があったのち、専門家である川嶋太津夫先生（大阪大学）より、その必要性や考え方について基調講演をいただきました。さらに関西大学、大阪府立大学、大阪大学という大阪を代表する3大学による、内部質保証システムにおける学習成果の可

視化の取り組みについて事例報告を行いました。パネルディスカッションでは、フロアからの質問カードを中心に、みなが苦勞している課題について共有を行いました。最後に大阪府立大学の前川寛和副学長から挨拶をいただき、大阪から発信する内部質保証システムの構築に向けて、次年度も引き続き、情報交換を行うことを確認しました。

(教育推進部 森 朋子)



AP合同フォーラムの様子



第23回ランチョンセミナーを開催しました

日時：2016年12月9日(金)12:20～12:50
場所：第2学舎2号館2階C207教室

前回の「知って得するルーブリック活用術～ルーブリック評価を体験しよう～」に続き、今回は「外国語の読解能力を評価する方法」と題して、英語の授業におけるルーブリック活用の事例を報告しました。

当日は、まず筆者が担当する英語リーディングの授業の概要を説明したあと、具体的な授業内容を報告しました。その中で、毎回の授業において英文を日本語で要約する課題を出し、その成果物を学生同士がルーブリックを使用して確認し合うという方法を紹介しました。

それから、ルーブリックを評定の基準とするツールとしてではなく、学習目標を達成するプロセスの中で、各自で毎回のトレーニングを振り返るためのツールとして使用することで、英文読解を繰り返し行うことを学習者に促し、その結果、個々の文の意味だけでなく文脈全体の理解度の上昇が確認できたことを報告しました。

参加者からは、「学習の修得度upのためにくり返しルーブリックを使用することで、ルーブリックの活用範囲が広がったように思う」、「ルーブリックを用いた

具体的な授業運営についてお話が聞けました」、「ルーブリックを日常的に使っている取り組みを知ることができた」などの声が寄せられました。評価ツールとして注目されるルーブリックについて、その導入を促進する試みはこれまでも行われてきましたが、それを具体的にどのように運用しているかについては、今後も報告が待たれるのが現状です。ルーブリックにご関心を持たれた方はお気軽にお問い合わせください。

(教育推進部 佐々木知彦)